

2015年度自閉症セミナー フォローアップ アンケート

職種	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
支援員	<p>事例検討を行う中で、太田ステージを活用して対象利用者の段階がどこにあり、どういった行動が可能であるか、整理するのに大変役に立ちました。 ABAの理論については常に頭に入れながら支援にあたっています。</p>	<p>各理論の周知と理解を得ること、並びに支援の共有・理解を推し進めていくことに課題があります。また、建物の構造上の理由や人員配置など、細かな支援を行うには避けて通れない壁もあるように思います。</p>	<p><b>長瀬先生:</b> 実践生かすことが難しい理由としてあげておられる「人員配置」の課題は、組織としてどう対処するか？つまり管理者の課題となります。管理者に各理論の周知と理解がある。もしくは外部のコンサルタントを入れる等の策を講じなければ、おおきな「壁」そして立ちはだかります。</p> <p><b>武藤先生:</b> 何人くらい支援者がいらっしゃる施設かがわかりませんが、確かに理論の周知と理解を得ることは大変だろうと思います。上司の強い意思も必要でしょう。場当たりの、過去の経験に頼るだけでなく、科学的根拠をもって利用者さんの認知発達段階を伝え、皆が「確かにそうだ」と実感できることが大切ですよ。いきなり全体ではなくても、どこかの棟の実践が見本になれるといいですね。</p> <p><b>渡邊先生:</b> まずは、自閉症の方の日々の生きづらさや上手くいかない背景にある特性、特徴を、性格、学習スタイルをアセスメントをとおして理解することに取り組みしましょう。</p>
支援員	<p>2日目でのインシデントプロセス法を用いての問題解決。実際に社内研修を行い、理解を深め実践してみた。</p>	<p>実際に現場が主な場所と会議室のみで問題と向き合える違い。</p>	<p><b>武藤先生:</b> やってみられた積極性が素晴らしいです。でも、所詮机上のアイデアということで終わってしまったのでしょうか？しらけた感じだったのでしょか？アイデアを出し合う習慣がインシデントプロセス法での重要な点です。解決できる案がすぐにはなくても、沢山工夫してみる姿勢が役立つと思うのです。</p> <p><b>渡邊先生:</b> インシデントプロセスで問題の発見までは進んだようです。次に、その問題に対して、対象者Aさんの場合にはどうアプローチするか？まで話し合いませんか？(そうしないと、結局はその担当者任せになってしまいます)。そのアイデアはアセスメントを基に行いましょう)</p>

2015年度自閉症セミナー フォローアップ アンケート

職種	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどのうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
部長	<p>職員の中に視線をあわせない傾向の人や動作仕事はできるが計画を立てることができない人に対し、発達障害の観点もふまえて対応していく必要性を考える機会となった。</p> <p>個人的には今回の参加の目的は私的環境(孫など)にいる人に対し、よりよい接し方はどうかと学ぶことであったが、複数の施設の方、又、職種の方が参加され子供達あるいは成人していく中で多方面でいろいろな課題があることを知った。</p>	<p>相手の行動が上手くコントロールできないとこちら側がストレスを感じるひとに対し、知識や理論上わかっているにもかかわらずスムーズに対応することが難しい。腹立たしく感じるときもある(自分自身のメンタルコントロールが常に必要)</p>	<p><b>武藤先生:</b>実際に発達障害系(もっと薄まった形での?)の方も職員の中にいらっしゃる可能性はありますね。過去のうまくいかなかった体験や傷ついた体験を重ねてきていらっしゃるのかもしれませんが。心がけておいてだとは思いますが、職務内容を明確化すること、困ったら誰に聞くのか(当たり前と思えることも説明が必要かもしれません)、文書化、視覚化することが役立つかもしれません。自分自身のメンタルコントロールが常に必要、という関係は想像が付きまします。大変でしょうけれど、事件がおきないような周りのフォローや共通理解も必要でしょうね。(障害としてではなく、特性として)</p> <p><b>渡邊先生:</b>ご自身やご自身が所属するチームが、対象者に対して打合せどおりの対応だったかどうか、ビデオを振り返るなどして事例検討を試みることをお勧めします。</p>
主幹	<p>太田ステージをもとにその人が見える世界をイメージして支援にいかすことができました。</p>	<p>限られた環境内での支援が難しい。また通所の施設では1日の大部分が家族での時間になること。</p>	<p><b>武藤先生:</b>日中は、ステージに合わせてその人に沿った支援ができるけれど、家庭ではいつもの対応に終始してしまうということですね。具体的にどんな不都合になるのかがわかりませんが(児童か成人かも)、親との連携は重要な視点ですね。こちらが相手に否定的な気持ちでいると、関係は改善しにくいですから、親御さんも大変なのだろうな…という見方から接していくことではないでしょうか。時間がかかります。</p> <p><b>渡邊先生:</b>限られた環境内での成果を、どうやって般化するかの視点でプログラムの充実を図ってはいかがでしょう。</p>
副主任	<p>今回のセミナーで今まで漠然として意識していた発達の捉え方を、太田ステージで明確に捉える機会を得ました。そして自分が提示する課題とは何なのかを考える機会を得ることができました。ありがとうございました。</p>	<p>理由はひとつしかないと思っています。自分の未熟さだけだと思います。自分の理解と伝え方の向上が実践にいかす方法であると思っています。</p>	<p><b>長瀬先生:</b>謙虚に向き合われる姿勢に共感します。理論と実践は、バームクーヘンのように層をなして向上していきます。良い実践家は、良い理論家でもあります。頑張ってください。</p> <p><b>武藤先生:</b>太田ステージが発達を明確に捉える手がかりになることを分かっていただけで嬉しいです。太田Stageを参考にして支援していかれると、対象の方の行動からStageをある程度つかんでいけるようになると思います。極当初は、私(武藤)もこれで何が分かるのか不信でしたが、今では私にとって欠かせないものです。相手の内的世界に関心を持ち続けていけば、だんだん実感をもって分かるようになります。応援します。</p>

2015年度自閉症セミナー フォローアップ アンケート

職種	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
主任	<p>応用行動分析(ABA)は現場でとても有効なものと感じました。利用者様の特性を考えた時、また職員の支援の統一、共通理解を考えた時にとても必要であると感じて、また、現在職場の伝達研修等取り組みに向けて、具体的に動いていけるように調整をしています。</p>	<p>実践に生かすことが難しいというか、新しく太田ステージを取り入れるために施設内での共通理解が必要と感じています。しかし私共の施設でも必要なことなので、実施に向けて取り組んでいきたいと思います。</p>	<p><b>長瀬先生</b>: ABA・TEACCH・太田ステージ、どこから取り掛かれても良いと思います。まずは自主勉強会でもいいので、第1回目を実施する。まずやる！大事です。</p> <p><b>武藤先生</b>: 共通理解が大切ですね。相手を理解するのに(7歳くらいまでの認知構造ですが)太田ステージは簡便ですので、発達を踏まえてABAで行動分析を綿密になさると具体的に役立ちます。また、日々の生活を発達に合わせておくことができる環境が整うと、行動の問題は減ってくるとおもいます。応援します。</p>